

実績概要 (ホームページ掲載用)

研究又は活動のテーマ	多自然川づくり計画支援ツールの研究開発
助成事業者	宮崎県多自然川づくり推進研究会
代表者	会長 杉尾 哲
<p>(目的)</p> <p>宮崎県で多自然川づくりを推進するため、河川改修の計画段階において、実務を担当する県と企業の土木技術者が自ら河川環境を容易に測定でき、構想している内容が、自然が多様で豊かな良い川づくりになっているかの妥当性を客観的に容易に評価できる多自然川づくり計画支援ツールを開発して、県と企業の土木技術者に提供する。</p>	
<p>(概要)</p> <p>本年度は、3カ年の実施計画の中間年として研究計画の重要な中核部分を下記の様に実施した。</p> <p>土木技術者が容易に測定できる調査項目としては、昨年度に検討した17項目を選定し、第1回研修会で測定方法を説明し、第2回研修会で現地測定の実習を行った。</p> <p>河川での測定結果から河川環境の総合的な評価値を容易に算定する手法については、主成分分析の解析結果を使って算定することとし、その算定と作図の過程をプログラミングして評価プログラムを開発した。</p> <p>改修構想の評価については、測定値を更新して改修予測値を算定して、その平面座標位置を現状評価値と比較できるようにプログラムを拡張した。</p> <p>開発したプログラムの試行版を、第3回研修会で宮崎県河川課と各土木事務所、および宮崎県多自然川づくり推進研究会に参加している企業に配布し、使用方法を説明した。</p> <p>県が河川改修を実施した10個所の河川環境を総合的に評価して、その評価結果を紹介する冊子を来年度に作成するために、県河川課と土木事務所等の技術職員と一緒に調査項目を現地測定して、河川環境の総合的な評価結果を算定した。</p> <p>以上の結果、この評価プログラムを活用することによって、河川事業の経験が浅い土木技術者にも河川環境を量的に評価して客観的に妥当な内容で容易に計画できるようになった。このことから、本評価プログラムの開発は、宮崎県の多自然川づくりを推進する上で大きな成果であると考えられる。</p> <p>来年度は、残された課題について研究調査実施して、河川環境を量的に評価して客観的に妥当な多自然川づくりを容易に計画できる計画支援ツールを完成させる予定である。</p>	